

袋井市政1年の歩み

防災、医療、産業、教育、交流など、様々な課題に直面した1年でした。まだまだ取組不十分ですが、活力あるまち、健康文化都市にふさわしいまちづくりのため、更に市政を前に押し出していきたいと思えます。

保健医療



＊中東遠総合医療センターの落成

当市と掛川市が共同で開設した中東遠総合医療センターが開院しました。この病院は地域医療を支える中核病院であり、24時間体制の救急医療が可能となりました。



＊聖隷袋井市民病院の開院

旧市民病院は、聖隷袋井市民病院に移行しました。市民の総合的な健康生活を支える「総合健康センター」の開設が進められています。



＊不要医療器をバングラデシュに寄贈

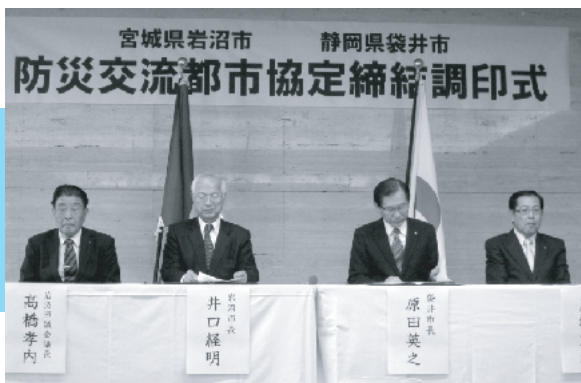
市民病院の閉院により使えなくなったベッドなど医療器具は、ボランティアの手でバングラデシュに贈られました。現地の法人から感謝状が届きました。

防災減災



＊津波避難施設「命山」の建設

浅羽南部の湊地区に当市独自の津波避難施設「命山」が建設されました。津波の被害が予想される地域には、これから後3基の建設が計画されています。



＊岩沼市と防災交流都市提携

袋井市南部の地形が似ていることから支援をしてきた宮城県岩沼市とは、防災交流都市提携が調印されました。福井県鯖江市とは災害時相互応援協定を締結、釜石市とは商工会議所が友好提携を結びました。

学校教育



＊中部学校給食センターの建設

袋井市立中部学校給食センターが完成しました。これで幼稚園、小・中学校全てで完全給食が可能となりました。センターでは、食材の地産地消の推進、アレルギー食への対応を進めます。

産業経済



＊新袋井駅舎の建設

今秋の完成をめざし新袋井駅舎の建設が進んでいます。新駅には南北自由通路が開設され、駅周辺、特に駅南地域の開発が期待されています。



＊進む国1バイパスの4車線化

国1バイパスの4車線化の工事に伴って、慢性的な渋滞が解消されつつあります。東名、新東名、そして国1バイパスは、当市の産業集積、交流人口の増大が期待されています。



◀朝日インテックジマ(株)

(株)武蔵野▶
東海工場

＊当市に進出する企業各社

カテーテルなど最先端の医療器具を生産する朝日インテックジマ(株)が山科東工業団地に工場を建設しました。旧市民病院の駐車場跡地にコンビニで販売する弁当、おにぎりなどを生産する(株)武蔵野が東海工場を立ち上げました。

文化交流



＊「宇刈里山公園」地質学会賞を受賞

200万年前の化石を多く産出する大日層、この地層を残し見学できるようにした宇刈里山公園が日本地質学会表彰を受賞しました。この学会表彰を受けるのは県下では初めてです。



＊ベトナム国交回復40周年の動き

遠州ふくろいの花火に招待されたベトナムからの留学生。昨年はファン・ボイ・チャウと浅羽佐喜太郎の友情を描いた日越共同制作番組「パートナー」が放映されました。袋井商工会議所とベトナム商工会議所と協力協定、学校を贈る「袋井市ワンコイン・スクールプロジェクト」も始まりました。



＊順天堂より可睡齋に李鴻章の扁額

可睡齋には下関講和条約の最中、暴漢に撃たれた李鴻章を救った佐藤進を記念する碑があります。この碑は「活人剣」と言い妙手回春という文字が彫られています。今回順天堂に残されている李の扁額の複製が可睡齋に贈られました。